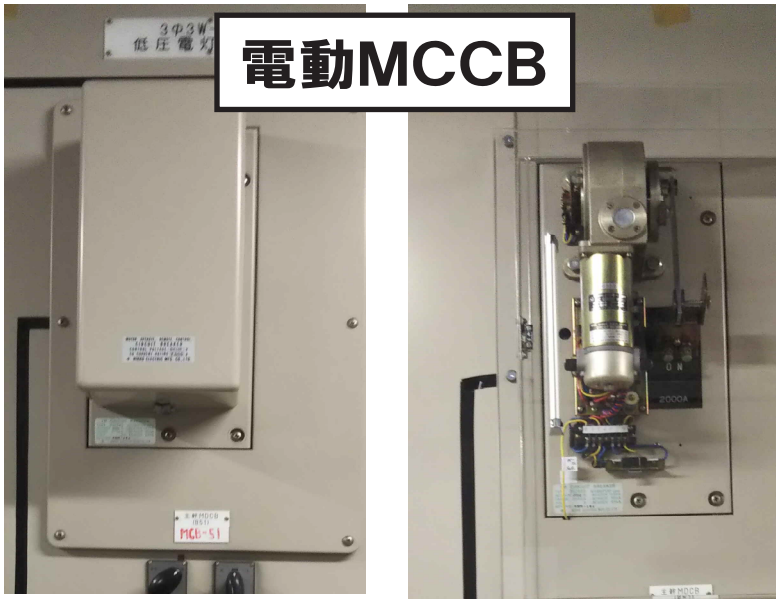


市立病院、耐用年数を大幅に過ぎた電気設備がズラリ



電動MCCB

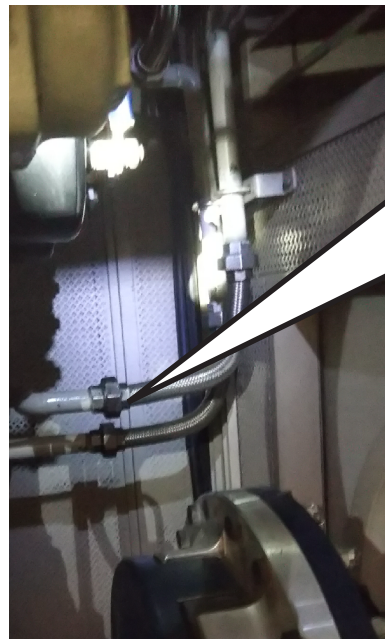
新棟建設に「待った」がかかった形の市立病院。いま電気設備の老朽化が深刻です。村上かずしげ議員の調査で、自家用発電機、ブレーカーなどの安全装置の大半が、市立病院を建設後、36年間、全く取り換えてないことが分かりました。しかも発電機1台の配管にはオイル漏れが確認され、電動MCCBというブレーカーが一台、遠隔操作できないなど、不具合も起こしています。新棟建築が大幅に延期になった以上、これらの電気設備の修繕、更新を急がなくてはなりません。

低圧電灯盤1.2の電動MCCB

本来なら左側のように、金属のふたがかぶせてあり、遠隔操作で動かします。しかし、右のMCCBは遠隔操作ができなくなって、人の手で操作しなければならず、いつでも操作できるよう金属のふたを外し、開閉できるアクリルのふたをかぶせています。

ブレーカーの類は、停電時、過電流時に作動する生命線です。誤作動すればたちどころに、医療機能が失われます。修繕が必要な低圧電灯盤2のMCCBは、いまだに修繕の予定はありません。ブレーカー類の耐用年数は25年。すでに36年も使っているのですから、不具合が出て不思議は

ありません。新棟建設を待っているわけにはいきません。安全で確実な工法で、老朽施設の更新を行うよう、村上議員は強く要求しています。



発電機のパイプの連結部
オイルのじみがあり
ます。パッキンの劣化
が原因のようです。

まず、驚いたのは発電機のパッキンの劣化が原因と分かっていることです。パッキンの修理はそれほどお金のかかる修理ではありません。それすら放置しているというのですから、「安全対策は大丈夫か？」と首をひねりたくくなります。メーカーからは機能的には問題ないとは言われているとはいえ、発電機の耐用年数は30年。村上議員の指摘に、「今年度中に直します」との返事がありました。